



SPECIAL INTERVIEW

立ち足る壁は 次のステップへの扉

大原櫻子

(俳優・歌手)

俳優・歌手として、マルチな才能を見せる大原櫻子さん。この春は、白石加代子さんと二人芝居『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂』に挑みます。舞台での意気込みなどを伺いました。

**次々と難役をこなすことで
新たな表現力を切り拓く**

映画や舞台、ドラマで活躍しつつ、歌手としても積極的に活動を続ける大原櫻子さん。

「2023年に俳優として、歌手として10周年を迎えました。この間、お芝居や歌など、いろいろなことに挑戦し、

居で演じることになったのです。歌唱シーンもあり、さらに子どもから大人男の子まで、四人の異なる登場人物を演じ分けるといって、ミュージカルと歌舞伎のエッセンスが織り込まれた作品です」

また、芝居の魅力については、「生の強さ」だと語ります。

「アニメでも映画でも話題を呼んだ人気の原作だけに、私はお芝居でしか出せない作品表現でこの原作の新たな魅力を引き出したいと思いました。お芝居の魅力、それは何と云っても、生の強さ。劇場に足を運んでいただけたお客様と同じ時間と空間を共有することで響き合えるのは、お芝居だけの醍醐味です。また、以前から演技力の圧倒的な凄さに、怖さまで感じていた白石加代子さんとの初共演ですので、嬉しさと共に役者として成長できるチャンスを感じました。このように挑戦する意味のたくさんある作品ですが、それ

どれも楽しく取り組みさせていただいてきました。壁や苦労はありました」とりわけ、俳優業での悩みは、役作り。「2022年に演じた二つの舞台作品では、普段の生活とはテンションの違う難しい役を演じさせていただきました。まず、1月初演の『ミネオラ・ツインズ』では、マリーナとマイラという名前の一卵性双生児姉妹の17歳から50歳までを一人二役で演じました。そして7月初演の『ザ・ウェルキン』で演じたのは死刑囚です。いずれも、想像もつかないような役柄であり、2作品続けて、これ以上高い壁は無いだろーうと思えました」

そんな難しい役に挑戦する大原さんが心掛けているのが、

「お芝居では、ありのままの自分をさらけ出す勇氣を持つことです。難しい役へのチャレンジは、怖さもあります。役者として一方でもわくわくもします。役者としての新しい扉を開けて次にステップす」とい大原さん。

「私自身、立ち止まらない人間であると自覚しています。ファンやお客様から応援の声が届く限り、新しい大原櫻子を見せていきたいと思っています」

**観客と時空を共有する芝居で
作品に新たな魅力を引き出す**

大原さんにとって2025年はさらにチャレンジングな年になりそうです。「アニメ化や映画化でも多くの原作ファンを捉えた児童文学の名作『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂』の舞台作品を、大先輩俳優の白石加代子さんと二人芝

大原櫻子 おおはら さくらこ (俳優・歌手)

1996年生まれ。2013年映画「カノジョは嘘を愛しすぎる」全国ヒロインオーディションで抜擢され、スクリーン&CD同時デビューを果たす。2014年俳優として『日本映画批評家大賞“新人賞”』、歌手として『第56回輝く!日本レコード大賞“新人賞”』を受賞。歌手活動と並行して、テレビドラマや舞台へ出演中。

大原櫻子さんのインタビュー動画を
ご覧いただけます。



PRESENT

大原櫻子さんのサイン入り色紙を
抽選で3名様にプレゼント

※プレゼントの応募方法は19ページをご覧ください。